

平成29年

6月18日発行

第47号

「本物に触れる大切さ」

島根県芸術文化センター

副センター長

荒木正秀

今年4月に副センター長になりました荒木です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、中学生の時、吹奏楽部に入っていました。2年生の夏に聴いた出雲市立第一中学校吹奏楽部の演奏は、その後の人生に大きな影響を与えました。当時すでに全国のトップレベルを維持していた同吹奏楽部の演奏を、初めて耳にした時の衝撃を今でもはっきり覚えています。それ以来吹奏楽のとりこになり、県大会から全国大会まで、全国のいろいろなホールに足を運んではコンクール



荒木正秀副センター長のアルト・サクソ演奏風景
文化事業課 佐々木真美さんとのデュオ

での真剣な演奏に感銘を受けてきました。

そんな私とグラントワとの出会いも、やはり吹奏楽コンクールでした。訪れる度に、他の

会場とは違って重厚にして荘厳であり、そして高いデザイン性をもたらす居心地の良さが私を包んでくれました。コンクールには贅沢な、出演者がともうらやましい会場です。今年の夏もコンクールに使われませんが、熱い演奏が繰り広げられることを楽しみにしています。

昔のことに思いを巡らせて気付いたことがあります。子どもの頃に音楽にしても美術にしても、良いものに触れる機会をいただいていたなあ、ということ。おそらく大人たちが、子どもたちにそういう環境を整えるよう努めてくれたおかげではないかと思えます。

以前、県教育委員会にいた時に、当時の藤原義光教育長が「感性を磨けば人生が豊かになる。知性を高めれば人生が豊かになる。」とおっしゃっていました。

子どもの頃から本物や一流に触れると、自ずと感性は磨かれていくということがあるのではないのでしょうか。

本物とはそれだけのパワーを持つているものだと思います。身の回りに本物がたくさんあることは大切ですね。

そういう意味では、正にグラントワは建物の存在そのものが本物であり、その中で繰り広げられる芸術もまた本物で埋め尽くすことが求められていると思っています。そのためグラントワは、澄川センター長のもと、本物を見極めて提供するよう心を砕いていきます。

そして、今後もグラントワが本物であり続けるためには、ボランティアの皆さんの支えは欠くことができないものです。

グラントワも日々齢を重ねて古くなっていきますが、それを補ってあまりある『グラントワ愛』が注がれていることを感じます。

皆さんの活発な活動に感謝しています。

今後ともいっしょになって子どもたちをはじめ、グラントワを楽しみにしている皆さんに「本物」を届けていきたいと思います。

グラントワのボランティア
活動紹介

「発送ボランティア」

美術館、劇場のイベントのお知らせを定期的に封書で発送（お届け）するボランティア・グループです。

用意された宛名シールの貼り付けとパンフレットなどの送付物の封筒入れ、そして発送です。

会員の方がたには、原則毎月情報が発送されます。（会員は千八百〜二千名）

美術館の企画展情報は都度会員の方々とそして協力いただいている各施設関係にお送りします。（年四回・施設関係の数は約二千四百箇所）

登録されている発送ボランティアの人数は約三十名です。

現在、希望者の募集をしています。誰にもできる簡単な作業です。ぜひ見学にでもお越しください。お待ちしております。

（記事、写真 飯塚哲也）



今年のGW 5月3日には「キャプテン・クックの旅するマルシェ」と銘打って企画展「キャプテン・クック探検航海と『バンクス花譜集』展」にちなんだマルシェが催されました。世界の料理や雑貨販売などで賑わいの一日となりました。

（陽窃）

ハワイ料理教室 ⇨

「EAGA 調理実習室でハワイ料理（ロコモコとスパムむすび）教室を開催。5月のマルシェにイベント・ボランティアで出店しました。」



⇨ 「キャプテン・クックの旅するマルシェ」会場風景



あ
と
が
き



さくらの時期は過ぎましたが今年もグラントワの桜はみごとでした。外周を回ってカメラに収めました。50名あまりのオーナーさんのおかげで、11年を過ぎ成長した花を楽しむことが出来ました。また石州瓦の色に映えてみごとでした。早朝から散策やジョギングの人々が足を止めて見入っていました。また、みなさんご存知でしょうか？ グラントワの西出入口付近に「昭和天皇陛下ご行幸の地」という碑があります。戦後の昭和22年のことです。子供ながらに当時のことを思い起こしています。

（哲）